

1. 件名：川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果（2021年度報告）に関する面談
2. 日時：令和4年7月6日(水) 10時30分～12時00分
3. 場所：原子力規制庁9階会議室
4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）  
原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門  
岩田安全管理調査官、佐藤（秀）主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、大井安全審査専門職、西来主任技術研究調査官  
九州電力株式会社 テクニカルソリューション統括本部 土木建築本部  
赤司 副本部長 他4名※  
九州電力株式会社 東京支社 技術グループ 副長 1名※
5. 要旨
  - (1) 原子力規制庁から、九州電力株式会社より本年6月30日に提出された「川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果（2021年度報告）」及び、本日提出された「第三者（火山専門家）のコメント」及び「火山モニタリング評価結果に対する助言と2021年度の対応内容について」に関して、以下の記載事項について確認を行った。
    - ① 監視対象火山としている5カルデラ（阿蘇、加久藤・小林、始良、阿多及び鬼界）の2021年度の活動状況はどうだったのか。
    - ② 2021年度報告に対して、第三者（火山専門家）からの助言は、どのような内容だったのか。
    - ③ 火山部会における火山モニタリング評価結果に対する助言に対しての対応状況について
  - (2) 九州電力株式会社から、原子力規制庁からの確認事項について、以下の通り説明があった。
    - ① 公的機関による発表情報、既存観測網によるデータ等を収集・分析し、2021年度の対象火山活動状況を確認した。その結果、各カルデラ火山において、顕著なマグマ供給率の増加を示唆する地殻変動及び地震活動の有意な変化は認められないことから、対象火山の活動状況に変化はないと評価した。  
なお、鬼界においては、マグマ供給を示唆する可能性のある基線の伸びと縮みの傾向が認められるが、鉛直変動を考慮したマグマ供給率の検討により、注意

監視の移行判断基準値（マグマ供給率  $0.01 \text{ km}^3/\text{年}$ ）に相当する変動は認められなかったことから、監視レベルは「平常」と評価した。

- ② 第三者からのコメントについては、提出資料（資料1）に記載の通り、以下の助言を受けた。
- ・カルデラ火山の活動状況に変化はないという評価で問題ないこと
  - ・鬼界についての基線長変化に関する検討結果を踏まえたうえで、現時点の監視レベルは「平常」で問題ないこと
  - ・今回の鬼界のように平常時の地殻変動に変化があった場合、マグマ供給率の詳細検討を実施するトリガー・検討内容が不明瞭なため、その手順をフローチャート等の形式により分かりやすく示すこと
  - ・地殻変動に関する統計的整理に基づく検討については、データ収集期間が長くなるにつれて、カルデラ火山へのマグマ供給以外の要因が発生する回数も増え、 $\pm 3\sigma$ の範囲が大きくなることが考えられるので、評価においては考慮する必要があること
- ③ 前回の火山部会（2021年10月1日開催）での火山モニタリング評価結果に対する助言等に対しては、提出資料（資料2）に記載の通りである。本年度評価より、電子基準点のデータについては、新しい解析手法による日々の座標値（F5 解）を用いた解析を行うとともに、鉛直方向については楕円体高から比高による評価に変更した。また、中・長期的取り組みとして、統計的整理については継続して検討中である。

## 6. 提出資料

- ・資料1 第三者（火山専門家）のコメント
- ・資料2 火山モニタリング評価結果に対する助言と2021年度の対応内容について

## 7. 既提出資料（令和3年6月30日受領）

- ・川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果について（報告）その1 <https://www.nsr.go.jp/data/000395889.pdf>
- ・川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果について（報告）その2 <https://www.nsr.go.jp/data/000395890.pdf>
- ・川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果について（報告）その3 <https://www.nsr.go.jp/data/000395891.pdf>